



法華宗信報

卷頭法話

導～しるべ～

法華宗管長 大本山光長寺御貫首 久保木日將猊下

クイズ！編集長からの挑戦!!

行事紹介

導き一法華宗第142代管長推戴式

昂り一法華宗青年伝道隊第10期新隊員養成鍊成



ギモン？しつもん！そななだ！！法華宗 Vol.4

Q: 久遠の遙か昔のお釈迦様と
同じ修行が私たちもできるのはどうして？

177号

令和7年7月1日

発行：法華宗宗務院

日蓮さまのおしえ



法華宗管長
大本山光長寺貫首 久保木日將

人々の幸せのために

（法に依りて人に依らざれ）
依法不依人

日蓮大聖人は、天福元年

（一二二三年）五月十二日、道善房を師として清澄寺に入山されました。大聖人は、世の中の人々がどのようにすれば幸せに暮らせるのかを深く考え、さらなる修行のために清澄から鎌倉・京都・比叡山・園城寺・高野山・天王寺等へ赴き、さまざまな宗派の教えを研究されました。

鎌倉時代は「新仏教」の時代とされ、法然・栄西・親鸞・道元といつた宗派の開祖たちが比叡山で学び、研鑽を積みました。

日蓮大聖人もまた、仏教の真理を求めて学び続けられました。

日蓮大聖人は、人の言葉で

多くの仏教經典を研究される中で、「今の時代に必要な教えは何か」という観点から、日蓮大聖人は法華經に辿り着きました。そして、この法華經こそが真実の教えであると確信されたのです。

建長五年（一二五三年）、三十二歳のとき、大聖人は房州清澄の旭ヶ森において、朝日を仰ぎながら初めて「南無妙法蓮華經」と唱えられました。このお題目を唱えることで、すべての人々の幸福を願い、法華宗を開かれたのです。

はなく、お釈迦さまの教えである經典に基づいて、「今の時代に弘めるべき教えは何か」を明らかにされました。

すべての人が成仏できる教え

法華經の『譬喻品』には、次のような言葉があります。

「三界は安きことなし 猶火宅
の如し 衆苦充滿して 莖だ
怖畏すべし ……今此の三界
は 皆是れ我が有なり 其の
中の衆生は 悉く是れ吾が子
なり 而も今此の処は 諸の
患難多し 唯我一人のみ能く
救護を為す」

よつて人々を救うことができるのであります。

法華經の教えは、「すべての人々が互いに助け合い、支え合い、等しく仏になれる」というものです。お釈迦さまは、法華經を説くために、まずさまざまな經典を説き、時が満ちたとき、最も大切な教えとして法華經を説かれました。

法華經を信じ、 弘めることの大切さ

日隆聖人は『本門弘經抄』において、信仰の大切さを次のように説かれています。

自利利他すべきなり
法華經の信仰を通じて、私たちは本当の幸せを得ることができます。それは、自分だけではなく、他者にも幸せを分け与えることがあります。

伝教大師は「己を忘れて他人を利するは慈悲の極みなり」と教えられています。

日々のお題目の大切さ

日蓮大聖人は、「まずは一人ひとりがお題目を唱え、聞かせ、勧めることで、この娑婆世界を淨土にしていくことが大切である」と説かれました。

常にお題目を唱えていたといふ話があります。そこには、親の深い愛情と祈りがありましたが。このように、法華經を信じて、人々の心の闇を照らし、幸せへと導くことができるのです。

信心第一、南無妙法蓮華經。この心を持つて人々と接し、生活していきましょう。慈しみの心を持ち、万物を大切にする。これこそが、私たちが目指すべき生き方です。

例え、ある母親が病気の子供を看病しながら、食事の準備中も、包丁を持ちながらも、

この世の中は、まるで火事の家のように苦しみに満ちています。しかし、仏の教えに

「信の一字を以て妙覺の位に居し、還つて本覺の名字即に会帰して南無妙法蓮華經を

法華経では…

『法華経』本門八品に於いて
(從地涌出品第十五から嘱累品第二十二)

お釈迦様

久遠過去世の
南無妙法蓮華経

上行菩薩と
地涌の菩薩達



インドのお釈迦様が説かれた真実の教えである『法華経』の中には、上行菩薩をリーダーとした「地涌の菩薩達」に対し、お釈迦様が入滅して居られない世界で『法華経』を布教するように説かれているのです。

つまり久遠の過去に、お釈迦様から上行菩薩へと、成仏する根本の種子である「南無妙法蓮華経」が譲り渡されたのです。

Q

久遠の遙か昔のお釈迦様と同じ修行が私たちもできるのはどうして?

しつもん!

ギモン?

どぅなんぢ!!

法
華
宗

前号では、久遠という過去世でお釈迦様がお唱えされたものと同じ「南無妙法蓮華経」を唱えることで、現代の私たちも仏になれるなどを説明しました。では何故、現代でも久遠の過去と同じ修行ができるのでしょうか。

しょうか。

インドのお釈迦様が説かれた真実の教えである『法華経』の中には、上行菩薩をリーダーとした「地涌の菩薩達」に対し、お釈迦様が入滅して居られない世界で『法華経』を布教するように説かれているのです。

Vol.4

法華宗では、上行菩薩がその姿を

変えて日蓮大聖人としてこの世界に現れたと考えています。これを人

界應同・人界應生といいます。

日蓮大聖人は、数々の法難を受けながら布教を続ける中で、ご自身が上行菩薩として久遠と同じ「南無妙法蓮華經」を弘めなければならぬことをご自覺されました。

大聖人の著述である『開目抄』では、お釈迦様が不在の世の中で、ご自身がリーダーとして正しい教えを弘めていかれるという決意を誓われているのです。

日蓮大聖人は…

『法華取要抄』より

日蓮は広略を捨て
肝要を好む。

いわゆる

上行菩薩所伝の
妙法蓮華經の五字なり。

『開目抄』より

我日本の柱とならん。
我日本の眼目とならん。
我日本の大船とならん。

今、現代の私たちへ…

A

久遠の昔のお釈迦様と同じ修行である
「南無妙法蓮華經」を、

上行菩薩である日蓮大聖人が
私たちに伝えてくださったからです。



大聖人の著書に上行菩薩が伝えた
南無妙法蓮華經と書かれているんだ

『開目抄』にはリーダーとしての誓い(三大誓願)

が宣言されているよ

だから大聖人が久遠の昔の
「南無妙法蓮華經」を
現代に届けられるんだな。

日蓮大聖人
(上行菩薩)

久遠過去世と同じ
南無妙法蓮華經

お釈迦様から
託されたものを
私たちに伝える

現代の私たち



全ての人々の為に一心に唱題を



導き

法華宗第142代管長推戴式

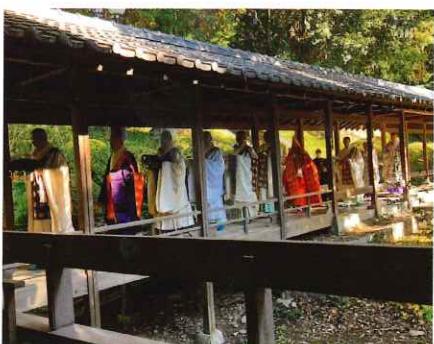
令和6年12月4日 於：大本山光長寺（静岡県）

去る令和六年十二月四日、
静岡県沼津市大本山光長寺において、久保木日將猊下の第
百四十二代法華宗管長推戴式
が厳修された。

午前十一時、大本堂にて有
縁の僧侶、檀信徒が異口同音
に南無妙法蓮華經のお題目を
唱えるなか、日將猊下は式衆
とともに入堂し、法要の始ま
りを告げる磬が鳴らされた。

式中、金井孝顕宗務総長よ
り管長推戴状の奉読がなされ
ると、合わせて管長印・管長曆
譜などが御宝前にて伝達さ
れ、日將猊下は諭達を奉読せ
られた。

読経唱題の後、金井総長の
祝辞に続き、大本山鷲山寺渡
辺明博執事長、大本山光長寺
門末会議長太田晴道上人、法
類を代表して蓮池光洋上人よ
りもお祝いの辞が述べられ、
管長推戴式は閉式となつた。



新たな世代へと伝えられる道



法華宗青年伝道隊 第10期新隊員養成鍊成開催

令和7年3月24~28日 於：大本山本能寺

昂り

令和七年三月二十四日から二十八日に亘り、法華宗青年伝道隊新隊員養成鍊成が大本山本能寺にて開催された。

青年伝道隊とは、宗祖日蓮大聖人の真意を広く伝えることを目的とした実践布教団体で、その主な活動は、網代笠をかぶり、団扇太鼓を打ちながら街を行脚し、伝道車を使用しての広報活動や各地で法話をするなどの布教活動等である。

この度、新たに伝道隊員となつた青年僧は八人で、先輩隊員からの各種所作や法話の指導、宗内外講師から講義を受けるとともに、本能寺参詣の方々や、街頭に立つて道行く人々に対し法話をした。

各師初めは緊張の面持ちであったが、段々自信が出てきたようで、今後の活躍が楽しみである。



編集長後記

みなさまいつも法華宗信報をご愛読、ご指導、お支えいただき誠に有り難うございます。

「暑いでんなあ」が合言葉の毎日、今年もお盆を迎えるました。お坊さんの服装もクール・ビズにならないかなあって密かに思ってますが(笑)、暑い中でもお墓参りされてる方々に、暑いくらいで弱音を吐くなと活力をいただいております。

法華宗信報を大阪教区が担当させていただくのも、いよいよ最終年度です。編集部一同全力で、「読みやすい信報、皆さまの信報」として取り組んでまいりますので最後までよろしくお願ひいたします!

編集長 拝

法華宗信報

No.177

発行人／金井孝顯

発行所／法華宗宗務院
〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町
2-19-1
TEL 03-5614-3055

編集人／山上晶教

編集部／〒572-0088
大阪府寝屋川市木屋元町11-4
本信寺内
TEL 072-831-0640

イラスト／水野ゆうこ
印刷所／有本印刷株式会社

法華宗（本門流）
ホームページ



<http://www.hokkeshu.or.jp>

ひらがな穴埋め

.	.	.
A	B	A
A	A	B
ぬ	A	B
け	B	
.	.	
A	み	
ぶ	ぎ	
や	B	B
B		

次のA・Bには
それぞれ同じひらがなが入ります。

漢字穴埋め

.	.	.
A	A	B
個	B	
B		
.	.	
日	日	
本	B	
A		

次のA・Bには
それぞれ同じ漢字が入ります。

クイズ!

挑戦
編集長
からの



光長寺

宗祖靈蹟寺院

身延山

9/17(水)
～18(木)

法華宗主催 宗祖日蓮大聖人750遠忌記念

静岡・身延 団参のご案内



来る令和13年に、宗祖日蓮大聖人七五〇遠忌の聖年を迎えるにあたり、法華宗宗務院主催、静岡・身延団参を実施いたします。

今回は大本山光長寺様はじめ、宗祖靈蹟寺院、宗祖が晩年を過ごされました、身延山への団参を計画しております。

多くの方のご参加を心よりお待ちいたしております。

募集要項

実施日：令和7年9月17日(水)～9月18日(木)1泊2日

集合場所：JR三島駅 北口ロータリー前(集合場所までの交通費は各自負担)

募集人員：40名(定員になり次第締め切り)

参加費用：お一人様 50,000円(宿泊・移動費・御灯明料等含)

申込締切日：令和7年8月20日(必着)

●詳しいお問い合わせについては、法華宗宗務院まで●

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-19-1 Tel 03-5614-3055 Fax 03-5614-3056

ナレッジの方法：漢字穴埋め A：一 B：人 ハジカタ穴埋め A：C B：孝